

2022活動報告書

人と社会を未来へつなぐ、白バラ



大山乳業農業協同組合

組合概要

名 称 大山乳業農業協同組合
代 表 者 代表理事組合長 小前 孝夫
所 在 地 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1
設 立 昭和21年7月21日
出 資 金 8億9,320万円
取 扱 品 牛乳、成分調整牛乳、乳飲料、発酵乳、乳製品、
アイスクリーム、菓子等

基本理念

あなたへ贈る 「白の一滴、心の一滴」 —酪農家の心を食卓へ—

大山乳業農業協同組合は、生産・処理・販売一貫体制の酪農専門農協として、公正で正直な行動により、組織・事業・経営の革新を図り、社会的役割と責任を果たすことを基本理念としています。
純白の牛乳一滴一滴にまごころを込め、酪農家の心をそのままお届けします。

大山乳業農業協同組合の「心」

大山乳業農業協同組合のシンボルマークは「白バラ」です。「白バラ」の花言葉には、正直・純粋・そして「あなたにふさわしい」という意味が込められており、「白バラ」のように純粋で純良な牛乳の生産を原点として、心のふれあいを大切に、これからも人々の健全な暮らしづくりのために貢献してまいります。



大山乳業農協が考える持続可能な社会づくり

SDGs達成に向けた取り組みを発信

持続可能な社会の実現に向け、大山乳業農協では昨年度より組合が目指すSDGsの推進に本格的に取り組んでいます。今年度は組合公式ホームページにて『大山乳業農業協同組合 SDGsへの取り組み』を公開し、生産・処理・販売を一貫して行う酪農専門農協として特に関わりの深い「酪農」「ものづくり」「環境」「くらし」の4項目を重点課題と決めました。

8月には、鳥取県内の個人や企業・団体がパートナーとして連携し、県全体でSDGsの推進を図る制度「とっとりSDGsパートナー」に登録し、参画企業となりました。私たちの身近には、企業や個人だけでは解決できない社会課題も存在します。誰一人取り残さない持続可能な社会を実現するために、業種や分野の垣根を超え、国や県、企業、専門家、個人などが

相互に協力し合う、まさにSDGs17番目の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」という想いのもと、今後もSDGs達成に向け、積極的な活動に取り組んでいきます。

具体的な取り組みとして、令和4年春からブリック製品全品でプラスチックの一部(5%)にバイオマス素材を使用したプラスチックストローの導入を開始しました。バイオマスプラスチックのメリットは、主に石油資源の節約と、温室効果ガスの排出抑制です。現在では、ブリック製品全てにこのストローが取り付けられています。

持続可能な社会を実現するために、組合一丸となり、大山乳業農協ならではの新たな取り組みを進めました。



登録証（カウイーのみるく館に設置）



バイオマスストローが付いている白バラ牛乳

01 大山乳業農協「2022年の重大ニュース」 ～様々な人と歩み始めた1年～

令和4年の干支である「寅」は動くの意味を持ち、芽の出る年とされています。大山乳業農協も新飼料倉庫の着工やチーズ事業再参入など寅年にふさわしく、新たに動き始めることの多い1年となりました。

酪農指導部 新飼料倉庫 令和5年1月完成

酪農指導部ではこれまで2つの飼料倉庫（本所工場敷地内と本所工場北西の県道沿い）を管理運用していましたが、共に老朽化が進み、防疫対策や工場の衛生管理面などで課題が山積していました。また、酪農家の利用においても倉庫が分散していることでスムーズに利用しにくい状況でした。

大山乳業農協では令和3年春よりプロジェクトを発足し、新たな飼料倉庫の建設に向けた準備を開始しました。建設計画の策定に始まり、建設用地の選定や取得、農地転用申請などの諸手続き、造成工事完了まで約1年をかけて進め、令和4年5月に建設会社4社による入札会を実施しました。同月に行われた建設工事地鎮祭では、宮司によるお祓いや土地を清める儀式が行われ、式典の終わりには全員が牛乳で乾杯し、6月からの倉庫本体工事が安全に行われるよう祈念しました。

建設工事は順調に進み、令和5年1月に新飼料倉庫が完成しました。新しい倉庫は周辺の環境にも配慮した設計となっており、今後は飼料や乾牧草、肥料、薬剤などを1カ所で管理するため、酪農家の皆さんには便利にご利用いただけるようになります。



地鎮祭は牛乳で乾杯



完成した飼料倉庫

白バラに新たなチーズシリーズが誕生 7年越しの挑戦に大反響

大山乳業農協では7年ぶりにチーズの製造を再開し、チーズ事業本格参入を果たしました。

第1弾として8月に「クリームチーズ」、「カチョカバロチーズ」、第2弾として10月に「スティックチーズさけるタイプ」の計3種類が発売されました。

発売されたチーズは、鳥取県産の生乳を使用した素材本来の自然な美味しさを纏った、真っ白で混じり気のない味わいの「ピュア」なチーズを目指し、開発者の理想の味わい、食感、レシピを追求すること延べ1年半の開発期間を経て、ようやく完成したこだわりのチーズです。

特にクリームチーズは初回製造分が数日で完売するなど、私たちの予想を上回る反響がありました。

昨今、酪農家の経営は燃料代や飼料の高騰により厳しい状態が続いています。そこで、「鳥取県の酪農や乳業を盛り上げたい」という思いから、チーズ開発の再始動と本格参入が決定しました。その結果、消費者のニーズに応えるだけでなく、全国へ私たちの想いと品質をお届けするきっかけとなりました。



発売されたチーズ3種



カチョカバロチーズ製造のようす

鳥取県の酪農を守る、繋ぐ、広める ～鳥取の生乳の良さを全国へ～

今年度は、酪農家にとって厳しく、危機を乗り越えようと奮闘した1年となりました。

一方で、鳥取県の生乳の乳質の良さを認められる受賞や、酪農家との交流再開など、明るい話題も多くありました。

中国地区良質生乳出荷者表彰 ホルスタイン部門の最優秀賞独占

令和2年度より鳥取・島根・岡山・広島・山口で年間を通じて良質な生乳の出荷者を表彰する制度「中国地区良質生乳出荷者表彰」がはじまりました。今年度の出荷者は498名で、6部門の表彰者は全員で28名となり、当組合の生産者はジャージー部門2名を除くホルスタイン部門で17名が受賞し、受賞者の半数以上を占めました。

その中でも最優秀賞は3部（年間出荷500t～1,000t）を除く学校部門を含めたホルスタイン4部門で受賞する結果となりました。昨年に引き続き受賞された方は、11名でした。

県外の受賞された生産者からは「大山乳業農協の乳質を目標に乳質改善に取り組んできた」と鳥取県の乳質が県外からも高く評価されていることがわかる嬉しい言葉もいただきました。

生産者の皆さんの良質生乳出荷への意識の高さが牛乳の美味しさに繋がっています。この受賞は、生産者、職員が一丸となり、様々な取り組みを実践した結果の表れとなりました。



受賞されたみなさん

酪農危機を乗り越えるために 支援要請

鳥取県内の生産者団体の代表として鳥取県の平井知事へ酪農危機突破に向け、2度の要請を行いました。

小前組合長は、4月22日に生産者を代表してナカムラファームの中村兼三さん（八頭郡）と共に「飼料高騰にかかる経営安定対策の強化に関する緊急要請」を行い、11月25日には、鳥取県内の生産者団体と県内外の消費者団体が「生産者支援要請」を行いました。これらの要請は、ロシアのウクライナ侵攻や世界

的な物価高に伴う飼料価格の高騰を受け、酪農家の経営が危機に直面していることから支援を要望するものです。要請を受け、持続的な経営基盤維持のための支援をいただくこととなりました。

また、9月7日には「酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会」が東京で開催され、自民党議員に経営の厳しさを訴え、早急な対策を要請しました。全国から200名の酪農家が出席し、鳥取県代表として大山乳業農協から3名が参加しました。

酪農危機突破に向け、大山乳業農協も様々な働きかけを行いました。



平井知事に要請書を手渡す小前組合長と生産者代表の中村兼三さん

未来の酪農を切り拓くために 酪農家との交流イベント再開

8月にデーリーキッズサポート事業として大山乗馬センターにて乗馬体験・厩舎見学が行われ、5家族27名が参加しました。この事業は視察、研修を通じて酪農家の親子及び子ども同士の親睦交流をはかり、酪農に対する造詣を深めてもらうことを目的としています。その他にも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されていた交流が少しずつ再開しています。

酪農家同士だけでなく消費者との交流を行うことにより、酪農の未来を担う子どもたちが増えてくれるきっかけになることを期待しています。

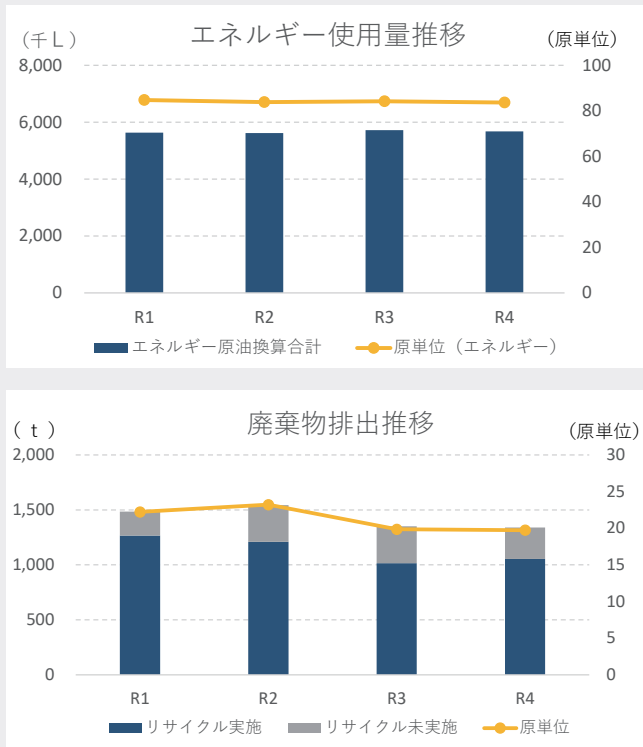


デーリーキッズサポートに参加された皆さん

03 環境に関する取り組み ～省エネ・環境に配慮した製造へ～

令和4年度は燃料費、動力費が大幅に増加し、エネルギー管理は特に厳しい状況下にあります。省エネ機器などの導入や改善活動「アップデート」により、省エネ活動や環境に配慮した製造に取り組みます。

エネルギー使用状況 廃棄物の排出状況



令和4年の廃棄物排出量は昨年より11t (4%) 削減の合計134t、原単位は横ばいとなりました。

本年の排出状況の特徴として、リサイクル率の上昇と製品廃棄量増加の2点があげられます。

令和4年のリサイクル率は3%上昇しました。これは、アルミの有償引取や廃プラスチックの固形燃料化を実施したことが要因と考えられます。

その他、焼却処分を行っている廃棄物リサイクル化の試験を進めているため、今後もリサイクル率は上昇し、産廃処理費が削減されていく見込みです。

製品廃棄量増加については、今年はほぼ毎月製造トラブルや売れ残りによる製品の廃棄がありました。令和4年排出量のうち、製品廃棄分の重量は4%を占めており、これが改善されれば削減量もリサイクル率も向上します。

今年は悪かった点で良かった点の効果を打ち消してしまいましたので、来年はより良い実績を目指します。

省エネ機器の導入

3号、4号ボイラー更新に伴う運転の見直し

今年は更新時期の目安となる10年を経過した3号、

4号ボイラーの更新を実施しました。新しいボイラーは既設のボイラーと比較し高効率である事から、燃料消費が少ない運転が可能となりました。日々の運転管理においても蒸気を使用する時間帯の負荷変動に合わせた運転を行ったことで、ボイラー効率率は3%向上しました。



写真左から3号ボイラー、4号ボイラー

改善活動「アップデート」における 製造部の身近な省エネ活動

昨年は1月始めから燃料費、動力費が大幅に増加した事から、年間を通して省エネ活動に取り組みました。内容として照明、エアコンの節電や、製造で使用する機器については従来の運転を見直し、過剰な部分の削減に努めました。その結果、昨年と比較しエネルギー原単位は電気98.8%、LNG99.1%の実績となりました。



市乳殺菌機の待機運転改善



節電の周知



発表会のようす

製品の美味しさと笑顔を提供するために ～白バラの魅力が鳥取から全国へ～

生乳の価値と可能性を追求し、地域との連携を密にすることで付加価値の向上に繋がった1年でした。また、コロナ禍でもお客様に白バラ製品の良さや笑顔を届けられるようオンライン交流を進め、現地での交流も再開するなど前進しました。

開発技術の集大成「ミルクファースト」 白バラプレミアムアイス発売

長い販売の歴史をもつ「大山牧場アイス」が新たに生まれ変わり、「白バラプレミアムアイス」として4月に発売されました。乳を味の主役とし、最後のひと口まで飽きずに楽しめるよう仕上げました。

ラインナップは、ミルク、抹茶、いちご、ラムレーズン、ブルーベリー＆クリームチーズ、黒蜜きなこの6品で、そのうち3品は鳥取県産の素材を使用し、上面にソースがのっているのも大きな特徴です。

また、ブルーベリー＆クリームチーズは、琴の浦高等特別支援学校と共同開発し、アグリネット琴浦（馬野建設グループ）で生産されたブルーベリーを使用するなど、琴浦町にゆかりのある3者が1つとなった共同開発商品です。さらに、ミルク、いちご、ブルーベリー＆クリームチーズの3品が鳥取県主催「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール菓子・パン部門で最優秀賞を受賞しました。

これから大山乳業農協のプレミアムアイスとして多くのお客様の笑顔と幸せな時間を届ける商品になっていくことを願います。



リニューアルした「白バラプレミアムアイス」

地元学生との商品開発第6弾 りんごとおいものクリーム大福発売

地元学生との商品開発は第6弾をむかえ、今年度は鳥取短期大学食物栄養専攻の学生とのコラボ商品「りんごとおいものクリーム大福」が発売されました。

りんごとさつまいもの認知度を底上げしたいという想いから2種類の県産素材を使用するという本企画初の試みを行いました。

平成25年に始まった大山乳業農協の6次産業化の歩みは、規格外農産物の有効活用などのSDGsの要素を取り込んだ内容に変化しています。地域や学生、

職員にとっても有意義な取り組みとなっています。



発売イベントの様子

産直交流が3年ぶりに再開 酪農家の心を食卓へ届けるために

3年ぶりに現地での産直交流が再開されました。産直とは「産地直結」を略した呼び方です。産直牛乳などを生協組合員の皆さんに届けている大山乳業農協では、産直三原則に沿って生産管理や交流で産地への理解を深める活動を行っています。

令和4年度は、オンライン中心の交流から徐々に現地交流も再開しました。10月には「各生協若手職員産直交流研修」が鳥取県で開催され、京都生協やコープしが、鳥取県生協、大学生協、鳥取県畜産、大山乳業の若手職員31名が集まり、繋がりを深めました。

また、11月5日、6日に「2022産直フォーラム」が開催されました。COOP牛乳産直交流協会は、生協牛乳・牛肉の普及・産直に関わる8つの団体で構成され、フォーラムには各団体の理事、役職員51名が参加しました。産直の歴史を知り、今後の産直の取り組みについて意見交換を行うなど交流を深めています。

積極的な産直交流により、お互いの顔が見える関係づくりを行いました。



産直フォーラム参加者の皆さん

05

様々な分野で始まる新たなチャレンジ ～時流と技術の変化とともに～

令和4年度は様々な分野で変化を感じる年となりました。ホームページやSNSを通じ、お客様が親しみを感じられる広報活動や、デジタル化による業務改善など時流と技術の変化に対応した新たな取り組みの成果が芽吹き始めています。

牛乳・ヨーグルト工場の工場見学 2年ぶりに再開

7月1日より大山乳業農協の牛乳・ヨーグルト工場の工場見学が約2年ぶりに再開しました。再開にあたり感染拡大防止対策はもちろんのこと、見学ロビーのリニューアルやWEBでの見学予約システムも導入しました。

工場見学では、大山乳業農協の魅力や製品のおいしさの秘密を楽しみながら学ぶことができます。皆様のご来場を楽しみにお待ちしております。



製造管理課 工場見学担当者

お客様との懸け橋に 公式ホームページ、通販サイトリニューアル

6月1日に公式ホームページを、9月30日に通販サイトをリニューアルしました。

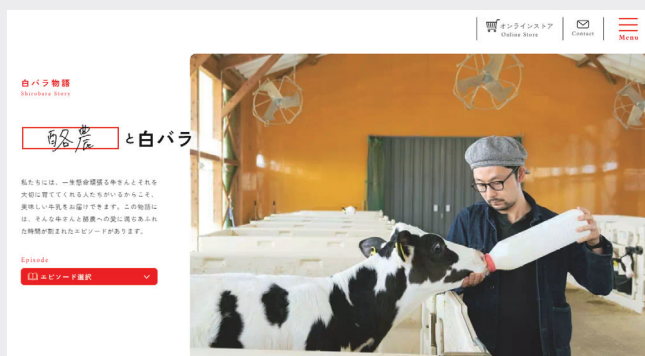
公式ホームページのリニューアルは4年ぶりで、生乳生産からお客様に届くまでに関わる人それぞれを主人公にした「白バラ物語」を中心コンテンツに据えたサイトを制作しました。通販サイトは、店名を「白バラ牛乳公式オンラインストア」とし、デザインも一新しスマートフォンで快適にお買い物いただけるよう見直しました。

また、SNS広報の強化にも取り組み、現在大山乳業農協で運用しているTwitter、Instagram、Facebookの3つの媒体を使い、インターネット上への情報発信を行っています。3月にはInstagram、Twitterのアカウント名称を「大山乳業（白バラ牛乳）」へ統一し、より多くのお客様との交流を進めています。

4月には、Twitterにて「白バラプレミアムアイス」プレゼントキャンペーンを行い、『バズリ』を生みました。これらの取り組みの結果、今期目標としていたフォロワー数を大きく上回り、12月末時点の総フォ

ロワー数は40,000名を越え、昨年末から3倍以上に増加する結果となりました。

白バラ製品を全国の白バラファンにお届けするだけでなく、大山乳業農協のことや鳥取県の酪農についても理解を深めていただけるような発信を行っています。



リニューアルした公式ホームページ

デジタル化の取り組みにより 業務改善に寄与

令和3年度に創設されたデジタル推進課では、今年度は「結果を出す年」と念頭に置き取り組みました。

1つ目は、総務部門で20年来続いていた仕訳業務における勘定票や多重入力を廃止することで紙伝票と検印作業を3分の1に削減しました。他にも勤怠管理や電子申請システムの導入により業務スピードの改善、ペーパーレス化が進んでいます。

2つ目は、販売部門において、受発注業務のRPA化（自動化）や販売実績にBIツールを活用しデータの分析や加工時間を短縮・早期化し、経営戦略の意志決定などに役立てることができました。



業務改善プロジェクトでの打ち合わせのようす

06

地域とのコミュニケーション ～大山乳業が取り組む社会貢献～

大山乳業農協は、企業の社会的責任を果たすため、様々な形で社会貢献活動に取り組んでいます。これからも地域に根差した企業でありつづけます。

教育支援と社会貢献



地域の子ども食堂「ほくほく食堂」への製品提供

行政・企業とともに社会貢献



白バラ牛乳広告欄活用で詐欺被害防止呼びかけ（鳥取県警察）



公益財団法人 日本ユニセフ協会へ寄付金を贈呈



フードドライブ（鳥取県生協）

スポーツ振興と社会貢献



毎回ゼッケンスポンサーを務めている日本海駅伝

地球環境保全と社会貢献



毎年行っている地元海岸の清掃活動